

奈良 勲(シリーズ監修), 鶴見隆正・隆島研吾(編)

《標準理学療法学 専門分野》 日常生活活動学・生活環境学 第4版

評者 上岡裕美子

(茨城県立医療大学保健医療学部 理学療法学科)



理学療法実践は、身体運動機能・動作の改善のみではなく、対象者の日々の生活における活動・行為のレベルで向上もしくは変化がみられて初めて、対象者やその家族にとって意味をもつのではないだろうか。2001年にWHOから国際生活機能分類(International Classification of Functioning, Disability and Health: ICF)が発表され、心身機能・身体構造、活動、参加の各構成要素と環境因子などとの相互作用性が示され、その概念は広く認識されてきた。

近年、わが国では超高齢社会を迎え、高齢者・障害者の在宅生活を支えるために、自立と生活の質を追求し、医療・保健福祉のさまざまなサービスが一体的に提供されることが求められている。このようななかで、理学療法士にとっても「生活」の視点がより重要となってきた。身体運動機能・動作だけでなく、日々の生活における活動・行為に対してどのように関与できるか、理学療法のあり方が問われている。そのような時期だからこそ、『日常生活活動学・生活環境学 第4版』が発行されたことに、大いに意義があると思う。

本書は、日常生活活動(activities of daily living: ADL)の概念や基本的な考え方、具体的な評価方法や指導法がわかりやすく解説されている。

第4版では、「日常生活活動学」の各論に「IX. ロービジョン(視覚障害)」と「X. 在宅生活に向けたADL指導」が加えられ、「生活環境学」の各論に「V. 高齢者の転倒予防と環境調整」が追加された。また、総論の「III. 生活環境と法的諸制度」では、2012年4月の医療保健と介護保険の同時改定、障害者自立支援法から障害者総合支援法への移行なども反映されている。

る。その他にも、全般に細かい修正が加えられ、図表の充実、重要な用語は太字体で記載するなどの工夫がなされている。

「日常生活活動学」の総論「V. ADL評価」には、代表的なADL評価表の説明に続いて、各ADL動作の質的な評価の要点が具体的に記載されている。第4版では、各ADL動作について、姿勢、バランス、環境、動作全体(手順)、介助方法など細かく項目が立てられ、よりわかりやすくなった。これを参考にADL評価を行えば、ADL指導や理学療法プログラム立案の資料として非常に役に立つと思われ、臨床家の方にもお薦めしたい。

また、「IV. ADLの運動学的分析」は図表が改変されて充実し、動作の運動学的分析についての解説がより詳細になった。

「生活環境学」の総論「I. 生活環境学の概念」は、本書第3版で改訂された部分であるが、人的環境、物理的環境、社会的環境の3要因と障害との関連性が、深い内容ながら理解しやすく解説されている。さらに、この3要因が生活の営みに総合的に関与していることを学ぶための学習方法が提示されているので、教員にとっても参考になるであろう。

本書は、学生はもとより、臨床家にとっても役に立つ、常に手元に置いておきたい良書であると言える。

●B5・376頁・4色刷

定価 5,670円(本体 5,400円+税 5%)

2012年 医学書院刊